

人たちの能力を活用して、どこに、どのような事業所を作り、その地域で何の事業ができるか、というものでした。最後に各グループ順番に発表があり、どのグループも豊かな発想から生まれた架空の事業所が紹介されていました。22時にナイトセッションが終わり、1日目の研修が終了しました。



2日目は第5講座から始まり、厚生労働省の障害福祉課長補佐である関口氏から障害保健福祉施策の動向として障害者総合支援法の説明がありました。障がい者の範囲がこれまでの3障がいに難病等が含まれることや、ケアホームとグループホームを一元化することなどが挙がっていましたが、これから3年かけて細かく見直しをしていくとも話されていました。

第6講座は、ふたば福祉会(和歌山県田辺市)の米川氏と、ちまちま工房(大阪府箕面市)の永田氏2名のシンポジストを迎え、それぞれの事業所での実践を紹介していただきました。

ふたば福祉会は、自立訓練や本人活動事業に力をいれておられ、ひとり暮らしに向けての訓練や、履歴書の書き方・お化粧講座などもあって、大人の人間として逞しく生きていく術を2年間かけて身につける場「フォレスクール」が印象に残りました。時には親御さんと考えが合わないこともあるが、本人の30年・40年先のことを考えて支援をしていると話されていました。

ちまちま工房では、チラシ作成などの企画グループ事業の他、50年営まれてきた豆腐屋で、障がいのある人たちと一緒に日々修業し、4月から完全に師匠(オーナー)から経営を引き継ぐことになったとのこと。その後、事業所協議会の白杉氏、松崎氏、厚生労働省の関口氏も加わり、「豆腐屋は早朝から働かなくてはならない。ほとんどの事業所は10時から16時頃までの開所だと思うが、『事業所は昼間にやるもの』というような既成概念に捉われないことがこれからの事業所には大切なこと。さらに、地域や風土の

なかに必ず事業のチャンス・ヒントがある」と話されていました。

2日間の研修会は以上をもって終了しました。とても盛りだくさんの内容でした。

地域との共生社会を実現していく目標は、事業所の種類や規模にかかわらず共有していることはたくさんあると思います。親御さんはじめ、全国で活躍されている福祉事業に携わる方々の話がたくさん聞けるこの研修会は、障がい福祉サービス事業で働く職員の自覚と知識の向上につながります。

育成会から5名の職員が参加しました。来年は岩手県の盛岡市または花巻市で行われる予定とのことです。遠方ではありますが、貴重な学習の場として、次回も多くの方が参加できる機会に恵まれれば幸いに思います。

全日本手をつなぐ育成会 第1回ステップアップセミナーに参加して

法人事務局 主任 辻 純三子

2月22日(金)に岡山市の県総合福祉会館で、全日本育成会の第1回ステップアップセミナーが開催されました。

定員80名を超える参加があり1グループ9名のワークショップ形式で行われました。

昨年まではリーダー養成研修として開催されていた研修会ですが、今年はもっと広くより多数の会員に参加して学んでもらえる研修会ということで、「誰でも一歩前へ」という意味を込め、ステップアップセミナーとして開催されたとの事でした。

まずは、全日本育成会の久保副会長より「自分らしく関われる育成会」、「育成会のあるべき姿」について考えようということで、「育成会が担うこれからの役割について」をテーマに基調報告をされ、大きく6つの課題を挙げられました。

①今必要とされる育成会活動について

21世紀は「共生と人権の世紀」と言われ、障害者権利条約も制度改革も「共生社会」の実現を目指しているため、育成会も受動的な「保護の対象」から能動的な「権利の主体」へ向けた活動への転換が求められており、障害者基本法において規定された「意思決定支援」については特に大切な支援ではあるが、明確な定義はなされていないため、障害のある人、家族、支援者などが今後積極的に議論していくことが重要だということ。

②「意思決定支援」について